

K A I H O U - Y A M A G U C H I

土地家屋調査士  
制度制定  
50周年



会報

や

ま

く

ち



山口県土地家屋調査士会



## CONTENTS

新年のあいさつ 山口地方法務局長・会長・副会長・公嘱協会理事長 .....	1
制度制定50周年記念事業について 記念式典（総務部長 西本聡士） .....	7
GPS観測による基準点設置 （広報担当副会長 三好一敏） .....	8
未来メッセージ募集—タイムカプセル埋設 .....	9
伊能ウオーク総括（広報部長 打越充浩） .....	15
要領改正本部研修会報告（業務部長 大森正秀） .....	23
中国ブロック定例総会に参加して （副会長 山根 努） .....	24
法務大臣表彰 .....	25
第Ⅱ系座標原点（熊本）（副会長 三好一敏） .....	27
「杭の日」無料相談の報告 .....	29
士業ネットワーク相談会の報告 （山口支部 川口寛司） .....	32

## 会員の作るページ

土地家屋調査士の業歴21年を顧みて （萩支部 廣石 勝） .....	34
自分を見つめて、そして日本人を見つめて （岩国支部 中島順一） .....	36

## 事務局だより

会員異動状況 .....	37
会務報告 .....	39
平成12年度土地家屋調査士試験合格者 .....	40
広報部からのお願い .....	41



## 新年のごあいさつ

山口地方法務局長

佐下 勝 義

新年あけましておめでとうございます。

山口県土地家屋調査士会会員の皆様には御家族ともどもお揃いで21世紀始めの理かしい新年をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

昨年は、シドニーオリンピックやパタリニックでの日本選手の活躍など明るい話題もありましたが、鳥取西部地震による災害の発生、17歳の少年による凶悪犯罪が多発するなど暗いニュースが多く、経済面においても、景気回復の緩やかな兆しは見えたものの、消費は依然として低調で、私どもの取り扱っている登記事件数も全体として減少傾向を示しており、景気回復にはほど遠い感じがいたします。それだけに、今年こそ景気回復が確実になり、明るい活力のある年になってほしいものと願っております。

一方、山口局の、昨年1年間の局務運営は、このような諸情勢の中で、皆様方の御理解と御支援によりまして、全体として順調に推移してまいりました。心から厚く御礼を申し上げます。

本年も多くの課題が山積しておりますが、私どもといたしましては、大きな課題の一つとして、高度情報化社会にふさわしい行政サービスを提供するための各種施策に取り組んでまいります。登記事務のコンピュータ化を促進し、平成16年度末までに主要な登記所の完成を目指して全国展開してい

るところでございますが、さらに、昨年からコンピュータ化の高度利用方策として、「登記情報提供システム」や「登記情報交換システム」、そして、「電子認証制度」も特定の登記所において運用を開始しております。また、地図整備を含めた表示登記の充実・強化や地図のコンピュータ化を推進することも大きな課題の一つであります。

山口局におきましても、これらの諸施策の実現のため、法務局の総力を挙げて取り組んでまいり所存でございますので、引き続きの会員の皆様方の温かい御支援、御協力をお願いいたします。

昨年は、山口県土地家屋調査士会におかれましても、土地家屋調査士制度制定50周年の記念行事や伊能ウオークのサポート等、大変意義深い年であったように御拝察いたします。新世紀を迎えて、土地家屋調査士制度が国民から一層信頼される制度として充実発展されますように、乗川会長をはじめとする役員の皆様方のさらなる御活躍と会員の皆様方にとって幸多い年でありますようにお祈りいたしまして、新年のごあいさつといたします。



## 年頭のごあいさつ

山口県土地家屋調査士会 会長

乗川 良介

平成13年辛巳の年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

今年は21世紀の幕開けの年であります。会員の皆様方におかれては、ご家族共々、健やかな初春をお迎えになったことと存じます。

どうか、この新しい年が皆様にとって良い年であることを祈念申し上げます。

昨年は、土地家屋調査士制度制定50周年の記念すべき年であり、節目の年でもありました。伊能ウオークを始め、記念式典の挙行等、多くの記念事業を会員皆様の協力の基、立派に終了することが出来ました。会長として先ずもって厚くお礼を申し上げます。日本土地家屋調査士会連合会を始め、全国各単位会におかれても、各種記念行事を終え、広く国民に制度のPRが出来、大いにその実を上げた聞き及んでいます。

さて、制度を取り巻く環境も、社会構造も、大改革の時代を迎え、司法制度の改革を始め、政治改革、行政改革と、口を開けば「改革、改革」と言う話題の出でこない日が無いぐらい、毎日の如く、テレビでも新聞でも見聞きされ続けています。その上、情報化、自由化、IT革命、更に規制緩和と、これほど急速に世の中が変化するとは想像もしていなかった20世紀末であったと思っています。

我々土地家屋調査士制度においても、過去50年間は、個人事務所で業務を独占的に

処理してきたと共に、会の指導としても個人に与えられた資格であるので、共同事務所は基より、法人化等は全く考えることが出来ないとわれ続けて来ましたが、近時、規制改革委員会より公開された論点の18項目の視点の中で、業務の独占範囲の見直し、登録入会制度の在り方、報酬規定の在り方、事務所法人制度の検討等が狙い通りに上がり、かつて論議できなかったことが堂々と論議されています。

この改革の中にあって、制度が生き残る為には、国民から信頼され、理解をされる制度に改革すると共に一人一人が自己責任を充分認識して、国民の皆様から支持して戴ける様、一層の努力をする必要があると思います。

その意味からも21世紀の幕開けに当たり、真剣に取り組む必要があると思います。

私共現執行部の任期も残すところ数ヶ月となって参りました。11年度事業も順調に消化して参っています。

今年には役員改選期でもあります。新執行部に精進することのないよう、残任期間一生懸命役員一同頑張りますので、重ねてご理解と、ご協力をお願い申し上げます。合わせて会員各位のご健勝、ご活躍を祈念し、年頭のごあいさつと致します。





## 新年にあたって

副会長 瀬口 潤 二

山口会会員の皆様、おめでとうございます。新世紀幕開けにあたり、新年のご挨拶をもうしあげます。

今なお、世紀末の経済の混乱、政治の混乱を、新世紀にも引きずっていますが、政府は、情報化社会を中軸に据えた社会を作るとの方針を発表しています。

これは、道路や箱ものを中心に進めてきた公共事業は、今後は縮小の方向であることを見据えておきましょう。

土地家屋調査士は、官民の別なく土地造成や道路建設といった生活インフラの整備を手助けし、事業の円滑な推進を懸命に支えてきたと思います。

しかし、高齢化社会の到来は、バブルの後遺症とともに、20世紀に創造した生活インフラ整備の、転換をせまっていると見るべきでしょう。

環境に対する考え方の変化など、生活感といった高度成長期とは異なった価値観が、情報化とともに、変化しているのです。

この潮流は、世界的なもので止めることのできない変化です。行政改革・規制改革は、この変化を反映したもので、我々の世界もこの流れの中にあります。

21世紀の潮流に対応するには、この果たしてきた役割を会員の一人一人が、きちっと見つめ直せなければならないのです。

我々は、裁判外境界紛争解決制度などへの関わりが期待されています。この制度は、我々が、真の意味で、中立的視点で業務をしてきたことと、この50年間に培った業務実績なしに成り立たないのです。

登記簿の表題部を独占的に作成してきたのは、土地家屋調査士なのだと胸をはりましょう。

「杭を打って、悔いを残さない」の合い言葉は、安定した「登記簿の表題部」を供給し続ける最も有効で確実な方法であることを社会に主張し続けることであると同時に、過去の手続書類として、保管されている登記資料を読み解く技術は土地家屋調査士にしかないことを確認しておきましょう。

21世紀の社会は、情報化が加速しますが、物と情報を現実繋ぐ「人」の関わりが不要にならない限り、この土地家屋調査士にしかない技術は、ますます、重要になっていくと考えています。

しかしながら、この特別な技術は、土地家屋調査士個人個人が、バラバラに保存している状態なのです。21世紀の社会が求めているものは、個々に備わっている技術を集中し、権威あるものに高め、納得のいく紛争の解決や、紛争予防措置に使える道具にすることなのです。

20世紀我々が、果たした役割は、誇るべきものがありました。我が国の貧弱な地固政策にかかわらず、懸命に生活インフラの創造を支え続けた際の功労者こそ、土地家屋調査士の一人一人であったのです。

山口県土地家屋調査士会は、新世紀にあたり、社会から求められる国家資格者であることを宣言し、会員一丸となって20世紀の古い殻は、脱こうではありませんか。

2001年 元旦



## 新年の挨拶

副会長 三好 一 敏

新年あけましておめでとうございます。

一昨年の後半、景気が底を打ち緩やかな回復傾向にあるといわれてすでに一年以上が経ちましたが、不動産関連業種の仲間に入る我が土地家屋調査士業界にあっては依然出口の見えないトンネルの中にいるような感じがしております。

昨年の50周年記念事業の1つであった春と秋2度にわたって通過した伊能ウオーク、伊能園展への会員及び補助者、家族の方々の御協力に対し心から厚くお礼を申し上げます。多くの方々の協力により山口会始まって以来の全会員参加事業となりました。強力な土地家屋調査士会の組織力、会員の結束力を至る所でアピールできたのではないのでしょうか。同時にPRが下手だと云われていた土地家屋調査士も新聞、ちらし、職、派手なジャンパーでこれまでの汚名を払拭することができました。20世紀を締めくくる良き思いでになったのではないのでしょうか。

21世紀幕開けにより新しい土地家屋調査士の姿が問われる事となります。50年の歩みを振り返りながら次代の土地家屋調査士の役目を考えてみようではありませんか。残る任期をよろしくお願いいたします。





## 新年のごあいさつ

副会長 山根 勇

新年あけましておめでとうございます。

21世紀最初の年となりましたが、本年度は、規制緩和3カ年計画の最終年度末にあたり、その行方が大いに気になる所であります。

特に強制入会制度の廃止、報酬規定の会則からの削除、法人制度の検討が見直し提示されています。また司法制度改革の流れの中で、法務省によって、ADRの検討がされております。規制緩和の観点から、また国民の利便性の観点から、規制緩和の流れは、公表されている中間報告よりさらに盛しくなるのではという心配をしております。会員の皆様一人一人が表示登記制度の担い手としての信頼を、国民から得る為は何をするべきかを真剣に考えていかなければいけないと思います。

本会役員として一年半が経過しましたが、予定された会務や会合への出席等々何とかこなして行こうと精一杯の努力をしているつもりですが、自分自身が、会をとりまく社会環境の変化に、きちんと対応できていないという反省がついて回り、能力のなさを痛切に感じています。残された期間はわずかとなりましたが、規制改革、司法制度改革に重大な関心をもって、次のことについて次期につないでもらえるよう、頑張りたいと思います。

- 一、境界鑑定委員会の組成
- 一、法務局・用地課との協議会
- 一、新しい要領に基づく業務研修





## 新年のごあいさつ

(社)山口県公共委託登記土地家屋調査士協会 理事長

水 津 久太郎

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、希望に満ちた新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。平素より公職協会の運営につきまして、深い御理解と温かいご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は土地家屋調査士制度50周年という輝かしい節目を迎え土地家屋調査士会も大きく発展しました。

本年は21世紀の新しい年を一步踏み出し希望に満ちあふれた世紀になってゆくことを期待します。

ところで、土地家屋調査士をとりまく社会情勢についても、高度情報化など急速な進展に対し、的確に対応することを住民からも期待されます。

行政についても情勢が大きく変わり、情報公開などの波が押し寄せるなか公共事業等の入札制度も新しく変わりつつあります。

このような状況を踏まえ、私ども社員はつねに社会の情勢に十分目をむけ地域の皆様から信頼と期待にこたえ社会に貢献できるよう努力したいと思っています。

最後になりましたが、会員の皆様方のますますのご活躍とご健勝を祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。





# 土地家屋調査士制度制定50周年 記念式典・記念講演会

総務部長 西本 聡 士

去る10月20日(金)「土地家屋調査士制度制定50周年記念式典」が、来賓に山口地方法務局局長 佐下勝義殿、山口県知事 二井関成殿(代理 土木建築部長 西本久之輔殿)、日本土地家屋調査士会連合会会長 水上要蔵殿(代理 副会長 中友洋介殿)ほか多数のご臨席のもと、ばるるプラザ山口(会館隣り)において盛会裡に開催した。当日は伊能ウオークを島根県へ引き継いだ翌日にあたり、来賓として招待した朝日新聞社山口支局長の坂口和之殿よりも、伊能ウオーク協力に対する感謝のことばがあった。また、これまで山口県土地家屋調査士会発展に寄与された在籍40年以上の会員(24名)に対し感謝状を贈呈したのち、日本土地家屋調査士会連合会名誉会長三浦福好殿より記念特別スピーチをいただいた。

式典の後、一般市民、法務局職員、各自治体の職員も参加した記念講演(浦野雄幸先生)がおこなわれ、取引の安全性を確保する土地家屋調査士制度の必要性和、これからの土地家屋調査士の在り方を拝聴した。

## 記念式典

主 催：山口県土地家屋調査士会  
日 時：平成12年10月20日(金)  
13：00より15：00まで  
場 所：ばるるプラザ山口(会館隣り)  
4階「多目的ホール」  
式次第：開会のことば 副会長 瀬口潤二

式 辞 会長 乗川良介  
表彰式並びに感謝状の贈呈  
来賓祝辞  
山口地方法務局局長  
佐下勝義殿ほか  
制度制定50周年特別スピーチ  
連合会名誉会長 三浦福好先生  
閉式のことば 副会長 山根 勇

## 記念講演会

主 催：山口県土地家屋調査士会  
日 時：平成12年10月20日(金)  
15：00より17：00まで  
場 所：ばるるプラザ山口(会館隣り)  
4階「多目的ホール」  
演 題：「国民生活と土地家屋調査士」  
講 師：弁護士・前東海大学教授  
(元法務省民事局参事官)  
浦野雄幸先生  
参加者：土地家屋調査士、法務局職員、  
各自治体職員、その他一般市民

## 50周年記念祝賀会

主 催：山口県土地家屋調査士会  
日 時：平成12年10月20日(金)  
17：30より19：00まで  
場 所：ばるるプラザ山口(会館隣り)  
3階「雅」  
記念講演会終了後、上記の場所で伊能ウオークの打ち上げを兼ね祝賀会をおこなった。

# GPS観測による基準点設置

広報担当 副会長 三好一敏

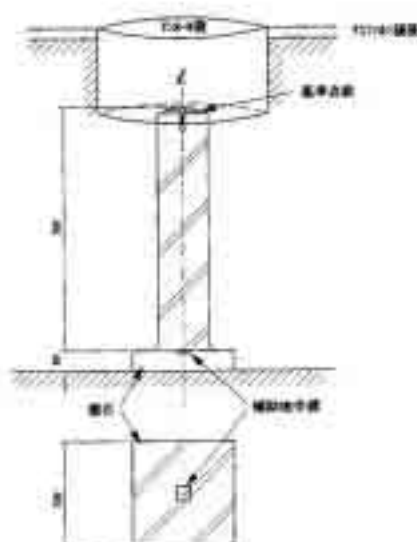
会館駐車場の一角山口駅舎寄りに50周年記念事業により設置した（GPS受信機で観測した）基準点がある。駐車場の機能を損なわないようマンホール地下埋設方式としている。

会館建設の際、屋上にGPS観測点として受信機器を設置し24時間観測できる基地局にするべく関係官庁にお願いに廻ったが、会館の構造が鉄骨ドーム型形状のため温度変化による変動が激しく基準点としての要件

を満足できないこととなり計画をあきらめざるを得なくなった。その代替として建設省国土地理院中国測量部から会館の敷地の一角に設けた基準点をGPS受信機により観測しようと言うこととなり、将来の4等三角点もしくは2級多角点として使える構造としてある。残念ながら現在は基準点としての認証を得ていないため座標値の取り扱いにあたっては注意が必要である。

## 制度制定50周年記念事業．基準点設置

### 基準点構造図



### GPS観測成果

設置年月日	1999年09月07日
観測年月日	1999年09月08日
観測者	国土地理院中国地方測量部
観測時の値	M
	X = -202861.398
	Y = -63040.201
	H = 26.60
	B 34° 10' 09" .0682
	L 131° 28' 58" .0755
	N 0° 23' 02" .76
座標系	平面直角座標系、第三系 (値は測地成果2000に未対応)

2000年10月20日

山口県土地家屋調査士会

## 未来メッセージ募集

### — タイムカプセル埋設 —

50周年記念事業の1つに「タイムカプセルの埋設」があるが、現在会館ロビーに展示して埋設される日を待っている。埋設といっても会館内の（あらかじめ会館建設の設計段階から計画されていた）地下ボックス部分に掘え置くこととなる。

このタイムカプセルに会員からの未来メッセージを入れ50年後の制度制定100周年に開封しようという大変気の遠くなるような事業である。会員全員が何らかのメッセージや写真1～2点を入れて未来へ夢を託してみましよう。

#### 内容物（例）

- 我が子、孫への手紙
- 家族、事務所、自宅の写真
- 50年後の土地家屋調査士業務予測
- 最近行った仕事の詳細、現場写真、図面、報酬額
- 最も記憶に残る事件

# 50年後

鉛筆はまだ  
あるだろうか？  
CDに変わるものは…  
境界標は元気です。



締 切 日 平成13年2月末日  
埋設予定日 平成13年3月下旬

# 伊能ウォーク フォトレポート



伊能中區展（常設） 会館3Fにて



下関開通式 雨の為関門国道トンネル地下、人混みエレベーター前広場





下関支部サポート隊 下関体育館前にて



豊浦町役場 出発式



秋芳展望台での港茶接待



山口県大会(県庁前) 栗川会長挨拶



めったに開かない伊弉志行門から出発





山口県大会ー山口県庁内での湯茶サービス



山口県大会ー山口市大殿小学校での「伊能図展」(搬取作業)



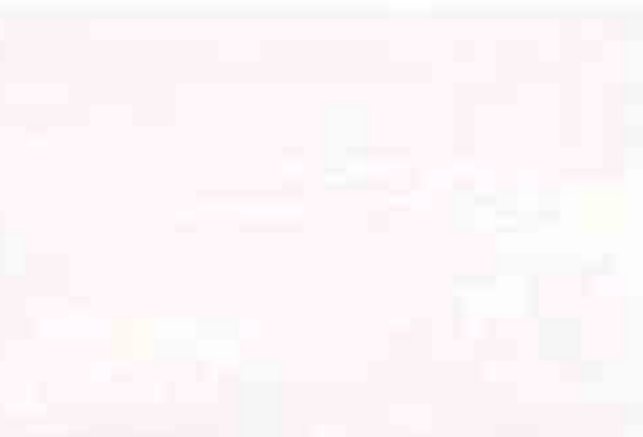
萩市大井保育園児の出迎え



萩市明輪小学校での「伊能図展」



萩市明倫小学校830人の児童、萩工業高校から40名、一般230名が伊能図を鑑賞



阿武町役場にて出迎いの園児鼓笛隊



須佐町湯の駅での湯茶サービス



鳥根原へ引継





阿武町の海浜地でウォーカ、サポート隊 記念撮影

## 伊能ウォークで歩いたルート



## 「平成の伊能忠敬 ニッポンを歩こう 21世紀への100万人ウォーク」参加会員に感謝

広報部長 打越 充 浩

徒歩で日本一周の旅を続ける伊能ウォーク隊をサポートする為、連日連夜湯茶の接待に地図展にとボランティアで参加されました支部長及び会員の皆様に御礼申し上げます。

1999年1月に東京をスタートしたウォーク隊は、伊能忠敬の足跡をたどり全47都道府県の約800市町村をリレーしながら約11,000kmを2年かけて歩き、日本列島を一周して2001年元旦、東京にゴールしました。江戸時代に55歳で日本地図を作り始めた伊能忠敬の心意気にふれる旅に多くの方が参加され、連合会の英断?で土地家屋調査士が湯茶のサポートを引き受けることになりました。先輩が作った連合会から単位会、そして各支部との組織力でサポートを完了することができ、山口会には地理の関係で5月に山陽路、10月に山陰路とウォーク隊が2回も通過する幸運?を受けました。山口県通過の特徴は、本年7月から9月まで阿知須町で開催される「山口きらら博」のキャンペーンをこの伊能ウォークと共にPRするため、山口県が要所で「きららフレンズ」、「きららバンド」を導入し、花を添えてくれました。

我が調査士会のサポートを振り返ってみますと、平成12年4月25日 岩国での引継式に始まり、平成12年5月8日の下関までの往路12日、延長240km、調査士サポート546名(保険対象者のみ)、そして平成12年10月8日の下関から平成12年10月19日の島根に引き継ぐまで復路11日、延長230km、調査士サポ-

ト302名(保険対象者のみ)です。ウォーク参加者は往路4380名、復路2170名、延べ6550名となりサポートした方を含めると7350名もの方々がこのイベントに参加したということになります(山口会総勢1100名)。

文明の発達により今では自動車が移動手段ですが、江戸時代に自分の足で測りながら地図を作製した伊能忠敬。彼は天測によって自分の位置(緯度、経度)を計算し、粗悪な道具での測量誤差を消すために度重なるチェックによって、現在の地図と寸分も変わらない見事な地図を完成させました。この地図の展示を通して多くの調査士が彼の技術の高さを知るチャンスに恵まれることができ(山口会主催の地図展は見学者延べ3800人)、ウォークに参加したことで土地家屋調査士の名前をPRすることもできました。そしてなんと言っても普段の研修では得ることのできない連帯感は今後の調査士会として貴重な財産となることと思います。

### サポート隊員の報告

岩国支部 78人、 徳山支部 96人、  
防府支部 95人、 山口支部 165人、  
萩支部 112人、 宇部支部 99人、  
下関支部 203人

の合計848人(連合会の保険対象者)

皆様、大変お疲れさまでした。

# 「伊能ウオーク」報告

下関支部 田代雄三

日 付：平成12年10月8日  
 天 候：雨  
 平均気温：24度  
 引 継 式：みもすそ川入道口エレベーター乗場前広場 15：25  
 （みもすそ川公園は雨天のため、変更）  
 到 着 地：下関体育館（平家太鼓）  
 （下関運動公園も雨天のため、変更）  
 到着時間：16：50  
 温茶、冷茶、コーヒー・鮎、チョコレート、煎餅  
 等をサービスした。  
 ウオーク距離：3.5km  
 ウオーク参加人数：約200名  
 調査士サポート隊員数：20名

日 付：平成12年10月9日  
 天 候：曇時々小雨  
 平均気温：27度  
 出 発 地：下関運動公園  
 出発時間：08：45  
 温茶、冷茶、コーヒー・鮎、チョコレート、煎餅  
 等をサービスした。  
 昼食場所：吉見近隣公園 12：10～13：00  
 温茶、冷茶、コーヒー・鮎、チョコレート、煎餅  
 等をサービスした。  
 到 着 地：豊浦町役場前広場（青龍太鼓）  
 到着時間：15：20  
 豊浦町側で湯茶、おにぎり・糍汁等のサービス有  
 り、当会省略  
 ウオーク距離：23km  
 ウオーク参加人数：約200名  
 調査士サポート隊員数：25名

日 付：平成12年10月10日  
 天 候：曇後晴  
 平均気温：28度  
 出 発 地：豊浦町役場前広場  
 出発時間：08：45  
 温茶、冷茶、コーヒー・鮎、チョコレート、煎餅  
 等をサービスした。  
 昼食場所：菊川道の駅 12：10～13：00  
 温茶、冷茶、コーヒー・鮎、チョコレート、煎餅  
 等をサービスした。

到 着 地：豊田前公民館（豊田太鼓）  
 到着時間：15：40  
 温茶、冷茶、コーヒー・鮎、チョコレート、煎餅  
 等をサービスした。  
 豊田町側で梨等のサービス有  
 ウオーク距離：23km  
 ウオーク参加人数：約100名  
 調査士サポート隊員数：20名

日 付：平成12年10月11日  
 天 候：快晴  
 平均気温：28度  
 出 発 地：豊田前公民館  
 出発時間：08：55  
 温茶、冷茶、コーヒー・鮎、チョコレート、煎餅  
 等をサービスした。  
 山口支部へバトンタッチ  
 ウオーク参加人数：約100名  
 調査士サポート隊員数：20名

## 感想・問題点・アドバイス等

山口県下関市は伊能ウオークの補路にあたり、5月往路の経験からか、お茶担当班は手際よく接待をしていた。また、他会員も、山陰路途中の危険箇所では、調査士会の旗を振っての先導あるいは手簿の箇所には「測量中」表示のスコッチ・コーンを置くなど、至れり尽くせりの努力の甲斐あって、無事山口支部へ引き継ぎ一同ほっとしております。

春はゴールデンウィーク、秋は体育の日を含む連休と一番の行楽シーズンを押しての会員一同一体となって伊能ウオーク隊をサポート出来たことで、支部研修会その他の支部行事では経験し得ない、会員相互の連帯感を導き出して頂けたことへ感謝いたしますと共に、ウオーク隊の皆様にはこれから2ヶ月半の道程には鳥根県→鳥取県と、この度の地震で復旧中の方面に向かわれることとなり、まだまだ困難なルートが残されていますが、新世紀元旦のゴールへ向かって無事全行程を終えられますことを心より祈念しております。



## ウォーク（豊田町～秋芳町）について

山口支部長 渡 邊 満洲生

10月11日(水)、豊田町の町民センターを午前8時50分に出発したウォーク隊員は、小学生を含め79名であった。

5km歩いた後、美祿市の豊田前公民館から山口支部の引受となり、ここで新たに約45名（調査士会員4名含む）の参加者があったが、豊田町内で歩くのを中止した隊員があり、差引豊田町出発時には92名となった。

平原集会所では、ウォーク隊の後方の人が近道をして、早く到着するというハプニングがあった。

これはウォーキング協会も我々も、コース中、粉らわしい個所のチェックを徹底していなかったために起こった。

事故がなかったのが幸いであった。

正隆寺は、伊能忠敬が泊まった由緒ある寺であり、伊能忠敬に関する資料（地図、日記等）が、約36mの資料館にぎっしりと詰まっていた。美祿市内を通過するウォーク隊を、牛尾一美祿市長は、特別に歓待し、休憩所では美祿市の婦人会が湯茶の接待を行

った。

また、昼食時に美祿市長がウォーク隊の歓迎のあいさつを行い、記念に伊能地区への署名を行った。

午後1時20分に、ウォーク隊は出発した。専正寺には予定より15分早く到着したので、ここでは30分の休憩となった。また、美祿市でのウォーク隊員はここで解散し、総勢44名の隊員で出発した。

本郷小学校までのコースをウォーキング協会が変更し、予定よりも30分以上早く到着したため、ここでの休憩は約1時間となった。

秋芳町の町立体育館前広場には、上利禮昭町長が先頭に立ち、ウォーク隊の到着を迎えられた。

到着式の後、上利町長が340番目の伊能地区への署名を行った。

1日に2人の首長の署名を行うことができたのは、今回が初めてのことであり、朝日新聞社の伊能ウォーク事務局の今村朗氏のご配慮に感謝いたします。

## ウォーク（秋芳町～美東町）について

10月12日(木)、秋芳町立町民体育館前広場で、出発に先立ち地元の奮万小学校生徒45名のバンド演奏があった。

午前8時45分、力強く77名（調査士会員9名含む）のウォーク隊が出発した。

秋芳展望台では、一般の観光客が大勢おりこの頃から雨も降り始め湯茶接待の準備に手間取ったが、会員の一致団結により無事終わった。

待つこと約20分、やっと先頭のウォーク隊が到着した頃、小学生の団体が我々の横を通り過ぎ一時は非常に混雑した。

長者の森のトイレ休憩は中止になり、そのため少年自然の家には予定より早く到着し、この施設の食

堂を借りて昼食となった。

雨も降っていたので、我々も非常に助かった。

長登銅山遺跡では、奈良時代にここで採取した銅を全国で一番初めに奈良に送った（奈良のばり→長登り）という銅山跡があり、そのふもとでトイレ休憩を行った。

到着地の美東町町民センターでは、清水町長が出迎えウォーク隊員の労をねぎらった後、伊能小園に署名した。

雨が降ったりやんだりの一日でしたが、今日のサポートを手伝ってくれた防府支部、宇部支部の会員の皆さんありがとうございました。

## 伊能図、ウオーク(美東町～山口市)について

10月13日(金)、快晴。絶好のウオーク日和となり午前8時45分、75名(調査士会員5名含む)のウオーク隊が出発した。

はじめの休憩所は、鳳鳴(ほうめい)小学校で、全校生徒11名(男子6名、女子5名)という閑静な山村にありウオーク隊の到着には、校長先生をはじめ全校生徒が出迎えの歓迎をした。

普段あまり人に接していないせいも、すぐウオーク隊の人と仲良く話をしており、特にウオーク隊の人が伊能忠敬の話をする、生徒達は熱心に聞いていた。

国道435号の鳳鳴山(ほうべんざん)トンネル(標高298m)を歩きいよいよ山口市入りとなり、吉

敷畑公会堂の休憩所では、徳山支部の4名と合流しここで昼食となった。

午後0時20分、ウオーク隊は出発し吉敷公民館でトイレ休憩の後、一路到着地の山口市市民会館中庭へと向かった。

午後2時25分、佐内正治山口市長の出迎えを受け、伊能小園への434番目の署名を行った。

今日は全長約23kmのコースだったが、標高の高いところをかなり歩き、ウオーク隊(特に調査士会員)はかなり汗だくだった。

なお、10月13日(金)、調査士会館で開催された伊能図展(中国・小園)の来訪者は16名でした。

そのうち、山口地方事務局から4名来られました。

## 伊能図、ウオーク(山口県大会)について

10月15日(日)、快晴に恵まれた山口県庁前広場に午前8時過ぎから徐々に人が集まり、午前9時30分からの開会式のセレモニーでは、「山口きらら博」のPRも兼ねて湯谷山口県副知事のあいさつがあった。

我が乗川会長も、土地家屋調査士の業務内容をあいさつのなかに取り入れて、参加者に対し大いに宣伝に努めていた。

予定より20分遅れの午前10時20分、192名(調査士会員9名含む)が元気よく藤井門をくぐりスタートした。

コースは、山口県庁前(出発)→サビエル記念聖堂→ニューメディアプラザ山口→湯田温泉→山口県

庁前広場(昼食)→香山公園→大歳公民館→大歳小学校→山口県庁前(到着)でした。

日曜日とあって家族連れ、他市町村からわざわざ参加した人もあり、また、全長11kmと比較的楽なコースなので各人思い思いに歩いたため到着はばらばらであった。

なお、10月14日(土)、調査士会館で開催された伊能図展(中国・小園)の来訪者は21名でした。

10月15日(日)、山口市立大歳小学校で開催された伊能図展(大園・中国・小園)の来訪者は192名でした。

## ウオーク(山口市～旭村佐々並)について

10月16日(月)「山口市役所前」(北緯34°10'41"、東経131°28'27")を午前7時45分に出発したウオーク隊は96名(内調査士5名)であった。

「天花畑公会堂」でトイレ休憩の後、「21世紀の森」へと向かった。両側が深い樹海のなかをウオーク隊は坂道を登り、ついに標高511mの「21世紀の森」に到着した。

世界各地からこの地に育つ樹木を輸入し、生育しているもので、21世紀にはどのような森になっているか楽しみな森林公園で少し休憩の後、ウオーク隊は出発した。

次の「首切れ地蔵」は、萩に城ができて50年ほどたった明暦の頃、山口市宮野の武士と萩市の武士が悪碁の勝負で石の置き方について喧嘩になり、萩の

武士が刀に手をかけ相手を殺し、その付近の沼の中に頭だけの地蔵尊(首からは石を重ねたもの)が見つかったという言い伝えのあるところで、ここは萩往還道路のすぐ側にありここでトイレ休憩をした。

「佐々並公民館」(北緯34°17'10"、東経131°25'48")では、萩支部の会員が待っており、山口支部から種々説明を聞き、ウオーク隊の到着を待った。

ウオーク隊は予定より約1時間早く到着した。

本日の移動(山口→佐々並)は北に6°29'、東にわずかに39'のウオークで、距離にして18kmであった。

# 「伊能図展」開催

萩市立明倫小学校体育館

萩支部 伊藤 正典

10月16日(月)

朝7時に関係者(調査士、補助者及び山口支部より4名の応援 計16名)が集合した。

テープを張り、図面の位置を決定し、割付後配置。作業時間は1時間少々。その後会場の飾り付け、パネル及びビデオ等準備完了。

開場は10時の予定であったが、一般客は9時前より入場。その後、小学校の生徒が先生に引率され、クラス単位でぞくぞくと来場する。事前のPR、お願により、明倫小学校は、ほぼ全校生徒の社会授業となった様である。地図を興味深そうに見て、当時の歩いて測量したという事に驚きの様子。子供の感想は次のとおり。

- 山口県や萩市の地図をみつけてうれしかった。
- 色メガネで見た国土地理院立体図がおもしろかった。
- 将来、楽しい地図を作りたい。

午後からは来場者も増え、本日の入場者

小学生 830名

高校生 40名

一般 230名

の計 1,100名と大盛況。

更に、地元、萩ケーブルテレビも取材にと、地図展としては大成功である。

4時に閉場、鳥根会へ引継ぎを終え、萩市役所へウォーク隊の到着を出迎える。

## 伊能ウォーク(萩市～阿武町)について

10月17日(火)

朝8時45分、萩市民館小ホールにて出発式の後、曇り空の中、萩市内の街並みを通り抜け、阿武町役場(22km)に向けて、ウォーク隊及び萩騎兵隊(5～6名)と一行105名出発。我々湯茶接待班も次の休憩地東萩駅構内へ移動。予定どおりウォーク隊到着。冷たい麦茶、更に、ホットコーヒーと皆さん思い思いの一杯を飲み、「ああ、おいしかった。ありがとうございました」の声をかけられ、我々も「今日一日、頑張ってください」と激励。調査士会のサポートが今や当たり前となり、必要な存在になっていることを感じる。昼食はすぐ目の前に萩湾が広がるマリーナイベント広場。ウォーク隊出発後防府支

部より4名の応援と共に全員きびきびと後片付けをする。

次の大井の里では、「社会福祉法人大井保育園」の園児による太鼓演奏がウォーク隊を歓迎した。一時、悪天候だった空も晴れ間が広がり、一生懸命な子供たちの姿に感動し、励まされた様子。更に、本日の終点、阿武町役場でも奈古保育園のチビッコ達が鼓笛隊で歓迎。二重の歓迎にウォーク隊の中から歓声がわき、笑顔満面の到着になる。本日の疲れが一度に飛んだ様子が伺えた。

我々の役目も無事終了。



## 伊能ウォーク（阿武町～須佐町）について

萩支部 高木義郎

10月18日、肌寒く今にも降り出しそうな曇り空のもと、ウォーク隊約90名は、ストレッチ体操を行った後、和太鼓と保育園児16,7名に見送られて午前8時50分に阿武町役場を出発した。

約40分ほど歩いた後、第一回目の休憩所である宇久集会所を出発する午前9時40分頃から降り出した雨は宇田郷駅手前まで降り続いた。

海岸沿いの木戸駅から大刈峠手前までの約10km間は強風にあおられ、帽子と旗をささえる腕が歩く足よりもきつかった。

午後3時15分、予定よりやや早く終点である須佐町役場に到着。かわいらしい須佐保育園児が小太鼓と遊戯で歓迎してくれた。

昔、よくつりに通った、今では通ることのない旧道から見える金井峠付近の風景を懐かしく感じた。

肌寒く降る吹くであった今日一日手伝いをしてくださった徳山支部の皆さん、ありがとうございます。

又、大刈峠で動かなくなった車に四苦八苦しながら湯茶等のサービスをされた萩支部の皆さん、ご苦労様でした。

## 伊能ウォークサポート隊10月18日の部

萩支部 岩本正一

① 萩支部がサポート隊の後援を引き受けて今日で3日目。昨日迄の小春日和は一夜にして一転、木枯らしの吹き荒れる最悪の日となりました。時雨がこなければよいがと空を気にしながら出発式の会場、阿武郡阿武町役場に8時20分到着。支援する調査士会萩支部会員殆ど全員が参集。

定刻を少々経過した8時40分、阿武町役場職員の司会により出発式の開会。大内隊長より出発式の開会宣言に続き、小田阿武町長の力強い挨拶、「この阿武町に今より200年前伊能先生が3日間滞在され地形調査をされた記録が町史に記録されております。今回の伊能ウォークサポーターの皆様は21世紀の第1日目2001年1月1日東京の地に入られるとのことを聞き及んで居ります。誠に記念すべき一大ドラマであります。皆様に敬意を表しつつこのドラマの完成を心からお祈りいたします。」とのお言葉があり鈴木副隊長より参加している45名の隊員並びに支援する調査士会員の紹介後、阿武町体育協会三好体育指導員のリードによりストレッチ体操で体をほぐし教育長の音頭によりエイエイオーの力強い儼の後に次の訪問地である須佐町に賑やかに出発。

② 支援する調査士会員は、高木会長にサポート隊に加わって頂き他の会員が旗や幟をかたづけ急ぎ次の第1回休憩地木戸駅前パーキングエリアへ急行。湯茶の接待準備中、時雨模様となり大粒の雨が北風と共に横殴りに降ってきた。サポーターの皆様は想像しながら待っているうち9時40分頃元気一同到着。案じていた皆様の表情は減

に健康そのもの、コーヒー、麦茶、番茶と好みのものの接待にのどを潤し10分程度の休憩で次の昼食予定地尾無公民館にむけて出発。

③ 支援隊員は協力して後片付けと共に昼食地の準備に急行。弁当は既に届いていた。湯茶は阿武町宇田郷支所でお世話になり用意して待つうち30分余次々到着。公民館2階の畳50枚敷きの部屋に案内され一同寛きながら談笑の内に昼食休憩。12時30分予定通り旧国道大刈峠にむけ出発。頂上にて休憩予定で支援隊は須佐町役場にて湯茶を補給。大刈峠に急行中国道191号線須佐トンネル入り口にて輸送車がダウンした為、路肩に放置して他の一台と併走車で大刈りに急行したが8台目にてサポート隊に出会い急遽路上に接待所をしつらえた。にもかかわらずサポート隊の皆様は喜んで湯茶を求められ支援隊一同ホッとした。そして本日の終点である須佐町役場前の広場に保育園児のブラスバンドに迎えられ予定より15分ほど早く到着。

小田孝阿武町長の歓迎の言葉と大内隊長以下隊員の皆様への嬉しいの挨拶に続き、大内隊長より本隊は1999年1月25日東京出発以来今日で499日目で訪問先並びに伊能小地図にしるさるる首長のサインは346番目であるとの披露があり町長のサイン終了と共に記念品が須佐町長に贈られた。鈴木副隊長より本日の経過の紹介があり、明日の予定の発表をもって萩支部支援第3日目を終了した。時に15時45分皆様悪天候の中本当にご苦労さまでした。

2000年(平成12年)9月16日 土曜日



# 来月再び長州行脚



山口県観光協会主催の「伊藤ウオーグ」参加者が長門川沿いを歩いている様子。

「伊藤ウオーグ」が12月、再び県内を巡る。伊藤忠財の足跡を生きた、約2年かけて日本を1周する「平塚の伊藤忠財」をテーマとする「伊藤ウオーグ」が、12月10日(土)から12月19日(日)まで、山口県内を巡る。伊藤忠財の足跡を生きた、約2年かけて日本を1周する「平塚の伊藤忠財」をテーマとする「伊藤ウオーグ」が、12月10日(土)から12月19日(日)まで、山口県内を巡る。

観光地研究会、朝日新聞社主催)も最終の第7(五)ステージ。今回は山口県内を巡る。伊藤忠財の足跡を生きた、約2年かけて日本を1周する「平塚の伊藤忠財」をテーマとする「伊藤ウオーグ」が、12月10日(土)から12月19日(日)まで、山口県内を巡る。

## 東に進路とり 山越え日本海側へ



「伊藤ウオーグ」は、12月10日(土)から12月19日(日)まで、山口県内を巡る。伊藤忠財の足跡を生きた、約2年かけて日本を1周する「平塚の伊藤忠財」をテーマとする「伊藤ウオーグ」が、12月10日(土)から12月19日(日)まで、山口県内を巡る。

8日下関→19日島根入り  
県大会は15日、山口市で

山口県観光協会主催の「伊藤ウオーグ」が、12月10日(土)から12月19日(日)まで、山口県内を巡る。伊藤忠財の足跡を生きた、約2年かけて日本を1周する「平塚の伊藤忠財」をテーマとする「伊藤ウオーグ」が、12月10日(土)から12月19日(日)まで、山口県内を巡る。

### 「伊藤ウオーグ」の日程

月日	区	種別	内容(受け付け・交通機関)	到着地	距離(km)
10月8日(日)	山口県中津川	出発	(下関) 下関駅前→下関運動公園	下関	0
8日(日)	下関運動公園	出発	下関駅前→下関運動公園	下関	0
10日(火)	萩市	萩市	萩駅前→萩市街	萩	20
11日(水)	萩市	萩市	萩駅前→萩市街	萩	20
12日(木)	萩市	萩市	萩駅前→萩市街	萩	20
13日(金)	萩市	萩市	萩駅前→萩市街	萩	20
14日(土)	萩市	萩市	萩駅前→萩市街	萩	20
15日(日)	山口市	山口市	山口市街→山口市街	山口市	0
16日(月)	山口市	山口市	山口市街→山口市街	山口市	0
17日(火)	山口市	山口市	山口市街→山口市街	山口市	0
18日(水)	山口市	山口市	山口市街→山口市街	山口市	0
19日(木)	山口市	山口市	山口市街→山口市街	山口市	0

山口・萩市  
ウオーグに合わせ  
複製地図の展示も

山口県観光協会主催の「伊藤ウオーグ」が、12月10日(土)から12月19日(日)まで、山口県内を巡る。伊藤忠財の足跡を生きた、約2年かけて日本を1周する「平塚の伊藤忠財」をテーマとする「伊藤ウオーグ」が、12月10日(土)から12月19日(日)まで、山口県内を巡る。





2000年(平成12年)10月18日 水曜日

# 元気に完歩の一行 園児の鼓笛が歓迎



10月18日(水)の朝、2000年(平成12年)の秋の足利市をめぐって、園児の鼓笛が歓迎する。園児の鼓笛が歓迎する。園児の鼓笛が歓迎する。



伊能ウォークコース  
—このコースは—  
園児の鼓笛が歓迎する。園児の鼓笛が歓迎する。

## 両武町に到着



伊能ウォークコース  
園児の鼓笛が歓迎する。園児の鼓笛が歓迎する。

園児の鼓笛が歓迎する。園児の鼓笛が歓迎する。園児の鼓笛が歓迎する。

2000年(平成12年)10月19日 木曜日



## 須佐町に到着

園児の鼓笛が歓迎する。園児の鼓笛が歓迎する。園児の鼓笛が歓迎する。

お礼  
「伊能ウォーク」の講師  
園児の鼓笛が歓迎する。園児の鼓笛が歓迎する。

朝日新聞社



# 不動産表示登記事務取扱要領改正説明会の報告

業務部長 大森正秀

法務局主催による不動産表示登記事務取扱要領一部改正についての説明会が下記のとおり行われました。

日時：平成12年11月7日(火)  
午後1時30分～午後4時  
場所：山口市惣太夫町「ぼるるプラザ」  
講師：山口地方法務局  
西谷節夫総括表示登記専門官  
参加者 嘱託官公署 203名  
会員 132名  
補助者 17名

今回の主な改正点

## 1 (境界線)

### 6条2項3号

金属製の「規格2号以上」を「頭径15mm、長さ50mm以上」としてサイズが明確に表示された。

### 6条3項

「境界には、できる限り複数の境界線の埋設を求めるものとする。」とあったが「できる限り複数」を「全筆界点」とされた。しかしこれは依命通知で緩和された取扱とされている。

## 2 (恒久的地物)

### 7条2号

「準則25条第2項の規定に基づき設置された永続性のある基準点」とされていたのが、準則25条第2項の規定は基準点の設置規定ではないので、「準則25条第2項に規定する永続性のある三

角点または基準点」とする。

## 3 (地積測量図)

### 8条4号

「分筆地以外の土地（いわゆる残地）についても前号の記載を求めるものとする」が削除されました。

### 8条6号

これまでは「既設の境界標」か「新設の境界標」か、また「永続性のある境界標」か「それ以外の境界標」の区別がはっきりとされていなかったためこの条項が新設され、「境界標の標示は、境界標の種類、既設、新設、永続性のある境界標は◎と記載する」とされた。

## 受講後の感想……

今日の規制緩和の時代に何故また要領改正の必要性があるのだろうか。疑問の声も聞かれましたが平成7年に施行されて5年が経過し、条文の解釈がはっきりしないもの、実情に合わないものが生じてきました。今回改正の目玉となった全点に境界標を設置するという事は、現地を特定し、境界紛争の未然防止を図り、現地復元性を有する地積測量図としての機能を高め、机上分筆を間接的に防止する趣旨のものと解りました。

このことの重要性は熱心に講義を聞き、メモをとっていた嘱託官公署の職員、会員、補助者の参加人数の多さ、関心の深さが物語るのと思われました。

## 第43回中国ブロック協議会定例総会に参加して

副会長 山根 勇

平成12年9月14日岡山市岡山プラザホテルにて開催されました。岡山会青野会長、連合会中友副会長、岡山市長のごあいさつがありましたが、中でも岡山市長が今までの囑託事件でトラブルとなった案件を、土地家屋調査士が解決されたことを話され、これからも大いに期待していると、メモなしで力強く語られ大いに勇気づけられる思いでした。

その後、分科会となり、4つのテーマ別に分かれました。私と大森業務部長は「不動産表示登記事務取扱要領の一部改正について」に参加しました。山口会は2001年1月1日からの施行となりましたが、他県は広島会が施行日が未定の他、現在法務局と協議中あるいは今から協議ということに対応の遅れが目立ちました。翌日大森部長が分科会の発表をされ質疑応答に対応されま

した。第一分科会の境界鑑定委員会の報告によりますと、中プロで組成した会はなく、その役割について必要性を論じていると言った実状のようであります。

山口会も土地家屋調査士の専門性をアピールできる新しい業務分野として、是非組成するべきと思いますし、同時にその広報活動も必要と考えています。ADRとどのようにリンクするかは未知数な所があり、司法制度改革の結果待ちという所もあります。

今後の中プロ協議会のあり方として、当たり前前のことではありますが、現在、会を取り巻く様々な問題点について、連合会に対し、中プロとしての意見をこの機会にとりまとめ、連合会に対し提言をしていけるように、中プロがそういう位置付けになってほしいと願ってやみません。



## 法務大臣表彰

この度、小田正夫会員が、土地家屋調査士会員として6人目の法務大臣表彰をお受けになりました。長年の会に対する多大な御貢献を考えると遅すぎたようにも思われますが、会および会員にとっても大変な誉れであり、小田会員の榮譽を心からお祝い申し上げます。

### 感謝・お礼のことば

私は本年6月23日付をもって、法務大臣より土地家屋調査士として多年にわたり業務に精励したとして表彰をうけ、又これに重ねて10月20日付をもって山口県土地家屋調査士会長より調査士制度制定五十周年を記念して永年執務に対して、又第三代会長をつとめたとして感謝状をいただきましたこと誠に光榮に存ずるものであります。

私は、この重なる受賞については全く予想もしていなかっただけに大変驚き、又私如き者がと反省し深く恐縮し乍ら只々有難く感謝いたしておる次第であります。思うに私は最早当年83才の老令会員となり心身共に老化してやることなすことすべてが間抜けており、殊に近年は、土地家屋調査士としても一会員としての会に対し何等の活動もできず定時・臨時の総会ですら欠席ばかりして、従って発展向上にいささかな貢献どころか会の運営に支障を来すような迷惑をかけむしろ足手まといとなっておる会員であることを自覚し乍らも今日まだ一會

員として在籍させていただいておる者であります。

そのような私がこの度山口県会では只一人晴れの法務大臣表彰を受賞し又これに重ねて会より感謝状を賜りましたこと、これ偏に法務省ご当局のご高配にあづかったことは勿論のことではありますが、先づ以て乗川会長先生はじめ役員の方、又全会員の皆様の温情溢れるご高配ご理解の賜物と存じ深く感謝し、只々有難く重ねて厚くお礼申上げる次第であります。

私は今、この受賞を期に老化したかすかな記憶を辿って遠く去ったあの頃の山口県会の活動状態を思い起こしてみるにその前後は皆私の尊敬している偉大な先輩諸先生がおつとめされた会長職のその第三代目として私如き浅学非才の者が、たとえ短期間であったこととはいえ、会長に在籍いたしたことは結果としては会員の皆様に大変ご迷惑をおかけいたしましたことのみを終り誠に申訳なく深く反省いたしおる者であります。

私の職務経歴をここに略記してみると、私は昭和26年12月19日付けをもって土地家屋調査士の登録認可を受け、同月25日入会し同日より出生地である美祿市において開業しました。

その後の昭和31年4月に因らずも会の理事に選任され第二代高田会長の時代に企画部長として任務中、昭和40年5月、高田会

長任満了により退任され是亦因らずも私が第三代の会長に選任されたものであります。同時に山口支部より私の先輩の渡辺侃先生が副会長の職につかれ、私はこの渡辺副会長の偉大なるご支援と全役員の方のご指導ご協力をいただきまして誠に微力乍ら何んとか会長の重職をつとめておりましたが当時より私は司法書士を兼業しており、その当時両業務共相当量の受託事件があり是れを要求された期間内に何んとか処理していたのが原因か心身の酷使により重い狭心症病にかかり会長職の執務が困難となり甚だ申訳なきもついに昭和41年12月に会長を辞任いたしまして、本光第四代会長に引継ぎさせていただきました。思うに歴代会長中私只一人が僅か二年たらずその職に在って任期中に辞任いたしましたことは会の発展向上にブレーキをかけたのみの在動であったことと自覚しております。

しかし乍ら以上の如き実績であったにもかかわらず実は昭和41年3月に第二代高田会長より、私を当年度の山口県会より法務大臣表彰の受賞候補者として推薦し上申いたしました。との通告を受けましたが、結果こ

れは不採用となり、それから又10年後の昭和52年3月に第四代本光会長より私を山口県会から当年度の法務大臣表彰の受賞候補者に推薦し上申いたしました。との通告を受けましたが結果は是又不採用となりました。

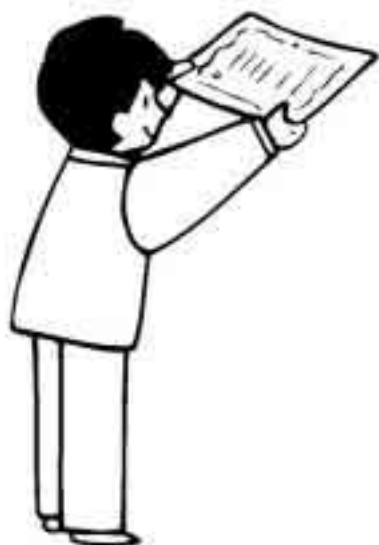
思うに私如き者が受賞者としては不適合であることは十分に自認、自覚しております。以来一会員とし末席にあって今日に至っております。今回は「三度目の正直」と申しますか、この度は法務大臣より晴れの受賞そして又是に重ねて会よりご高配溢れるばかりの感謝状いただきました。以上のような次第です。本当に有難うございました。

平成12年12月1日

土地家屋調査士 小田正夫

#### 〈大臣表彰〉

日本土地家屋調査士会連合会の会長、副会長、常任理事をもって構成する審査会において定めた推薦基準に基づいて、審議会において推薦する。(日本家屋調査士会連合会顕彰規程第14、15、16条)





## 日本測地系第Ⅱ系座標原点設置

副会長 三好一敏

土地家屋調査士会九州ブロックの50周年記念事業として熊本会が中心となって阿蘇外輪山の一角、国有林に囲まれた国有地の北緯33度00分、東経131度00分に日本測地系第Ⅱ系座標原点のモニュメントが完工しその完成セレモニーに参加した。

全国390名から基金を募り集まった淨財1032万円で、できあがったものはコンクリート製の立派なもので熊本会のシンボルとして、九州地区の座標原点の位置を表す明

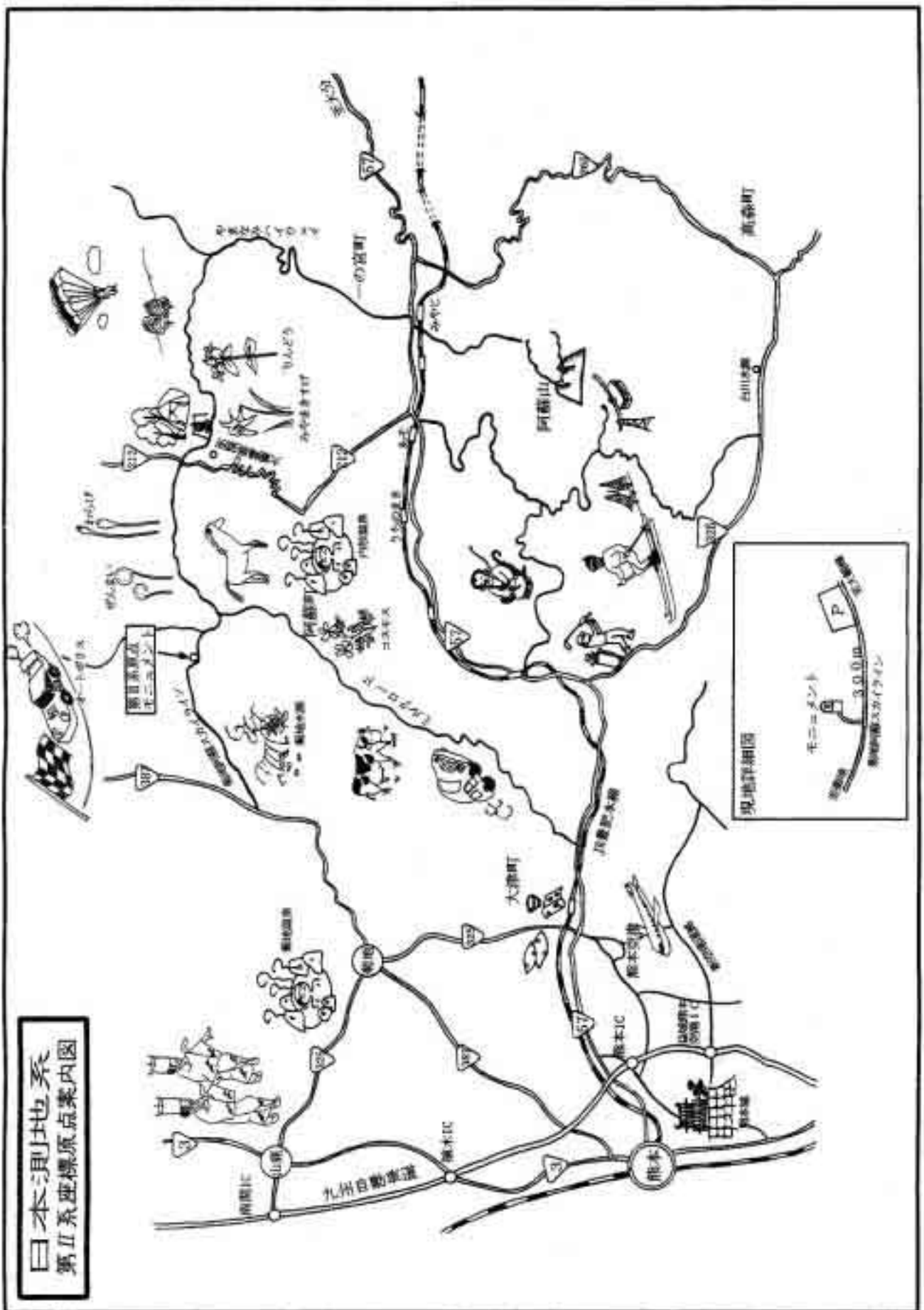
示物として永く後世に残される。測地成果2000年が使われるようになれば原点位置が400m余り移動するためその後の原点とはならないが日本の測量技術の創世記のシンボルとして語り継がれてゆく。そのモニュメントには山口会の会員の厚志者の名前も刻まれており、異国の地で自分の名前を見つけたときには何か表現できないような感激をするのではなかろうか。



山口会員の名前も刻まれている銘板

中心が日本測地系第Ⅱ系座標原点





日本測地系  
第二系座標原点案内図

## 『杭の日』の無料相談報告

防府支部長 檜山高明

『杭の日』の無料相談を実施した結果を下記のとおり報告いたします。

記

1. 日時 平成12年9月1日  
午前9時00分～午後3時00分
2. 場所 防府市寿町6番39号  
「防府地方合同庁舎」4階  
共用会議室
3. 来場者人数 13名
4. 対応調査士  
支部長 檜山高明  
副支部長 阿部次男  
支部理事 林俊男  
本会理事 三刀屋康之

### 5. 相談内容

相談者13名の内9名の相談内容が境界に関するものであった。一般の人に境界標の役割、および必要性をもっと認識してもらえようさらに努力する必要があることを実感した。

宇部支部長 上原英治

今年の「杭の日」の無料相談会は、9月2日山に行った。場所は、宇部市シルバーふれあいセンター。ウベニチ新聞社、宇部時報社、サンデー宇部、サンデー小野田に記事を書いてもらい、本部に作ってもらった、リーフレット、今回特別に宇部支部で宣伝用に作った、シャープペンシルを相談者に配り、調査士7人で相談対応をした。

相談来場者は、午前中13人、午後5人の計18人。今回は市の広報紙が、まにあわなかったが、サンデー宇部に5回、記事として載せていただいたので、予想以上の相談者があったように思う。土地家屋調査士PR相談会としては、成功であったと思う。相談内容には、相続、税金、農地の相談も多少あったが、ほとんどは「土地の境界」

の問題。登記面積と実測面積が食い違うことによるトラブルや未登記ゆえの紛争が多いこともわかった。「杭を残して悔いを残さず」この名言のように、しっかり、杭を入れてトラブルをなくすように地道な努力をしてゆきましょう。



下関支部企画委員

## 宮崎幸三

下記のとおり9月1日表示登記無料相談会を開催しましたので報告いたします。

1. 会場 下関市役所本庁1階ロビー

1. 日時 平成12年9月1日

AM9:00~PM4:00

1. スタッフ

下野洋二 池本賢治 白木 博

田代雄三 義満 一 宮崎幸三

福田幸秀 清水浩二 大田浩治

の各会員

1. 相談数 3件

上記のとおり、余りにも少ない相談数に前宣伝の努力の足りなさを反省しています。

来年度の4月1日及9月1日の無料相談会については、市報への掲載を怠りなくすることと、予算の問題はありますが、他の機関紙への掲載も考えるつもりです。

山口支部長

## 渡邊 満洲生

山口支部では、9月1日(金)に「杭の日」無料相談会を実施しました。

地元紙(週5日発行、60,900部、有料)でPRした結果、8件の相談がありました。

土地の境界についての相談なので、隣接者とのからみでどうしても相談時間が長くなり、2人の相談員は午後3時まで対応に追われました。

相談者に解決への方法を説明しましたが、解決までは時間がかかりそうです。

以下、その内容及び気付きについて。

(内容)

(1) 隣接地(申出人は隣接者)との土地の境界には立ち会ったが、土地境界確認書の記名押印を土地家屋調査士が偽造した。(1件)

(2) 自宅へ通じる赤線(巾は公図上2.5mある)が、年々隣接者が、農耕のため赤線を少しずつ削ってくるので通行に支障をきたしている。

隣接者とは、昔から仲が悪い。(1件)

(3) 17条地図の境界と現地が違う。

(4) 我々のあとから土地を求めた人が、我々共有地(8名、公衆用道路)を了解なしに通行する。(1件)

(5) 遠隔地のため、年に数回しか行かない自己所有地があるが、年々境界を侵害している。(1件)

(6) 隣接地との境界が昔からあいまいで、はっきりしたい。(3件)

(気付き)

(1) 相談者は、土地の境界について解決するための境界立会、測量、杭の埋設等の費用は全く出す気がない。

そのため、無料の日をわざわざ選んで来た相談者もいた。

(2) 他の無料相談機関(弁護士会・行政書士会等)に相談に行った相談者が何名かおり、費用をかけずに自分の思うとおりの境界にしたいがため、その機会を待っている。

(3) 相談者の一方的な相談なので、客観的にみて、隣接者の方が正しい判断をしていると思われる相談が数件あった。





**無料**

# 一斉共同相談会

暮らしの中の  
ありとあらゆる“困った”に  
複数の法律関連の資格者が協力し、さまざまな角度から  
お答えします。

**日時** 11月11日(土) 午前10時～午後4時

**場所** 山口県土地家屋調査士会館 3階会議室  
山口市惣太夫町2番2号(JR山口駅すぐ隣)  
TEL 083-922-5975

**受付** 随時

**受付先** 山口法律関連士業ネットワーク事務局(山口県司法書士会)  
または各加盟団体(下記)

**主催** 山口法律関連士業ネットワーク



行政書士会	〒753-0548 山口市東通町2-4-17	TEL 083-924-5069 FAX 083-924-5107
弁護士会	〒753-0048 山口市東通町2-15	TEL 083-922-0067 FAX 083-926-2220
公認会計士協会	〒744-0035 下松通町5丁目1-601 山口県公認会計士事務所	TEL 0833-44-0820 FAX 0833-44-1534
社会保険労務士会	〒753-0348 山口市東通町2-4-17	TEL 083-923-1720 FAX 083-923-8900
税理士会	〒753-0174 山口市大内町120-2 山口県税理士事務所	TEL 083-925-2339 FAX 083-923-8141
土地家屋調査士会	〒753-0045 山口市惣太夫町2-2 (JR山口駅すぐ隣)	TEL 083-922-5975 FAX 083-925-8552
不動産鑑定士協会	〒754-0001 古賀町1番町通会館1-4 富士ビル1/1階	TEL 083-973-1051 FAX 083-973-1049
司法書士会	〒753-0048 山口市東通町2-9-15	TEL 083-924-8220 FAX 083-921-0475

# 一斉共同相談会報告

山口支部 川口寛司

山口法律関連士業ネットワーク（行政書士会・弁護士会・公認会計士協会・社会保険労務士会・税理士会・土地家屋調査士会・不動産鑑定士協会・司法書士会）は、「土業の日」平成12年11月11日（土）に第3回一斉共同相談会を開催しました。※

今年は、山口県土地家屋調査士会館を会場として、例年どおり午前10時から午後4

時までの予定でしたが、開催時間前から多数の相談者が1階での受付を済まされており、3階相談会場では時間を繰り上げての開催となり、終了時間も4時を過ぎるまで多数の相談を受けました。

※「土業の日」とは、士を分解すると十一になるので11月11日を毎年「土業の日」と定めた。

## 山口法律関連士業ネットワーク「第3回一斉共同相談会」開催結果

（平成12年11月11日 於：「山口県土地家屋調査士会館」3階 会議室）

### (1) 相談件数

事前予約数	当日	合計
55件	44件	99件

### (2) 相談来場者

男性	女性	合計
58	41	99

### (3) 相談時間

	事前予約者	当日来場者	合計
10:00～	10	12	22
11:00～	13	11	24
12:00～	7	6	13
13:00～	6	3	9
14:00～	8	4	12
15:00～	11	8	19
	55	44	99

### (4) 無料法律相談を知ったのは（複数回答）

チラシ	市広報	サンデー山口	テレビ・ラジオ	各士業窓口	新聞	その他	回答なし
6	13	25	6	15	4	11	28

## (5) 来所相談者数(延人数)

団体名	項目	相談員 (延人数)	来所相談者数(延人数)		
			男	女	計
山口県行政書士会		5	3	3	6
山口県弁護士会		8	29	20	49
日本公認会計士協会中国会山口県部会		2	0	0	0
山口県社会保険労務士会		4	4	1	5
中国税理士会山口県支部連合会		3	9	6	15
山口県土地家屋調査士会		2	6	0	6
山口県不動産鑑定士協会		3	3	1	4
山口県司法書士会		11	23	20	43
計		38	77	51	128

## (6) 来所相談者数頒布

山口市	61	下関市 徳山市 山口市 岩国市 秋穂町 山陽町 旭村 無記入	徳光阿美広 知須東島 須町市	各1
防府市	12			
小郡町	7			
萩市	3			
宇部市	3			
新南陽市	2			

## (7) 主な相談内容

団体名	主な相談内容
山口県行政書士会	農地転用手続きについて 隣人との紛争について
山口県弁護士会	サラ金、カードローン、自己破産、交通事故、離婚(慰謝料、財産分与等)、遺産分割、境界、建物の瑕疵、不動産の明渡、成年後見制度、保証人の責任について
山口県社会保険労務士会	守衛業務の労働条件、サービス産業の強制について 労働時間、休憩、残業、賃金、休暇、生活保護について
中国税理士会 山口県支部連合会	土地売却に伴う税金問題、離婚に伴う税金問題について 扶養控除について
山口県土地家屋調査士会	地籍調査の不備について 隣接地所有者による越境と境界確認 土地地目変更登記について
山口県不動産鑑定士協会	不動産評価の算出方法 固定資産評価額の妥当性について
山口県司法書士会	遺言の作り方、遺産分割、相続登記、サラ金、自己破産、成年後見制度、土地家屋の名義変更、不在者財産管理人の職務について



## 土地家屋調査士の業歴 21年を顧みて

萩支部 廣石 勝

昭和50年に司法書士を開業し、仕事が暇であったので、土地家屋調査士の資格試験に合格することを目指して、来る日も来る日、書式の練習のために机に向かったのだった。書式の練習は毎日しないと、スピードが落ちるし、忘れるので、苦しい思い出となった。

受験する事、4回、やっと昭和53年に合格ラインにすべりこんだ。

そもそも私が土地家屋調査士を目指したのは、田舎では、どんな相談や依頼があろうとも、それに対処出来るだけの一通りの資格を備えた事務所の体制を確立しておく必要があったからである。そうすれば、地域住民に対して、より良いサービスの提供ができると思ったからである。

早速、昭和54年1月1日に会に入会し、業務を開始した。

しかし、大阪の補助者時代に土地家屋調査士の測量助手をした経験、司法書士を開業してから知り合った土地家屋調査士の方の書類を見ることや問うてみることは調査士会に入会するより以前からしていたが、何しろ本格的な調査士の補助者をしたことはなかったもので、少々、不安であった。

昭和50年代の半ば頃は、まだ平板でも、簡単な測量はしていた時代であり、境界立会も少しはルーズであったようである。

昭和50年代後半に新区分建物が施行されているが、田舎では、ほとんど区分建物は

ないので、少ししか勉強していない。これではいけないと思うのだが…。

又、この頃は私の調査士の業務歴の中で、一番多く建物の新築、増築の依頼があり、沢山の事件を処理した思い出がある。

昭和60年に入ると、土地の測量図を伴う申請は次第に手続が改正され、厳格になっていくのである。これに反して、建物の申請の方は表示登記のときの住所証明書の添付と平成5年の合体の手続の改正位でたいして変更になっていない。

私の事務所も土地の申請の厳格化につれ、次第に測量機器、計算、製図システム等を揃えていくのであるが、現在の農家と全く同様で、農業以外の稼ぎを農業に注ぎ込むというようなことで、司法書士の収入を土地家屋調査士の測量機器、計算、製図システムの購入に充てるといったパターン繰り返しである。それというのは、司法書士の収入は調査士の三倍からあるのだから、仕方がない。

私の住んでいる阿武町においては、昭和30年代後半には国土調査があり、県内でも早い方だった。しかし、国土調査の成果が良くないので、なかなか依頼があったときに、神経を使うし、仕事の処理がスムーズにいかないときがある。

建物の依頼は別として、土地の急ぐ依頼や手間の掛かる仕事の依頼等はどうしても二人位の事務所では処理できないし、今頃

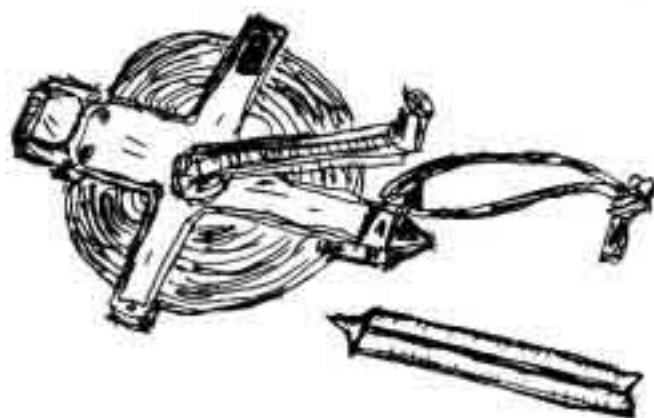


は、結構、調査士は設備投資に資金が必要なので、共同事務所のことが頭に浮かんで来る。

土地家屋調査士は規制緩和で波に飲み込まれることはないだろうが、余り年を取ると、土地の測量には厳しい処があるような気がする。

今から先も、そんなに多くの事件の依頼はないだろうし、あったとしても処理できないので、今まで通りマイペースでこなしていくことにしよう。

しかし、今から10年、15年後を目指し、土地家屋調査士の資格を汚すことなく、更に土地家屋調査士の資格を広く世間に知らしめるべく、頑張っていかななくてはならないと思います。



# 自分を見つめて、そして日本人を見つめて

岩国支部 中島 順一

私は生きている、中島と言う名前で、日本で、岩国で、私は何んなのか。私が死んだとして、家族は悲しむだろうが社会になんの影響があるだろうか、そう考えていると、子供は大人になったし、私は何のために生きているのだろうかと思ってしまう。

いろいろあるだろうが最後は「家庭の平和のため」ということになる。自分の家庭の平和、一人ひとりの家庭の平和、それが広がれば日本の家庭の平和となるであろう。

家族が平和に暮らすためにはどうするか、仕事をしてお金を稼がなくては行けない。何のため仕事をするか、家族と平和にくらすため。

ということは、家族を犠牲にしてまで仕事をするのはおかしいのではないか。過労死するほど、自殺するほど仕事をすな。といたい。

家族と平和に暮らすため、その手段として仕事をしているので仕事をするために生きているのではない。

ある程度の頑張りが必要であるが私を含

め、多くの日本人は「いそがしい、いそがしい」といえばいいかと思っている。日本人は「仕事」と言えば何でも犠牲にできるという風潮がある。

家族と平和に暮らすため仕事をするのであり、家族が一番大切なはずだ。私は近頃思うのである。仕事は適度にして、家族と共に好きな事をしたり奉仕活動を通じて自分の生き甲斐を見つけたいと、自分が社会に役立っていると実感したい、そして他人から感謝される人間になりたい。

言いかえれば奉仕しても、それがあたりまえと思い感謝の気持ちのない人、自分中心の考えの人は、私はきらいである。それともうひとつ、老後のこと、戦後ベビーブームで生まれた私達団塊の世代は、将来受給できるであろう「少ない年金で豊に暮らす」方法を考える時期がきたとおもっている。

自分の人生を振り返ったとき「仕事だけであった」とならないよう、後悔のない人生を送りたいと思っている今日この頃である。

事務局  
だより

## 会員異動状況

## 1. 会員入会状況

	氏名(生年月日)	入会年月日	事務所	TEL	FAX
	中橋明弘 (S30.3.17)	H12.7.3	〒750-0317 豊浦郡菊川町大字下厨枝583の2	(0832) 87-0515	(0832) 87-0695
	綱本 認 (S21.4.15)	H12.8.1 (再入会)	〒740-0004 岩国市昭和町三丁目3-21	(0827) 22-7723	(0827) 22-7724
	和泉 誠 (S49.5.1)	H12.11.1	〒755-0036 宇都市北琴芝二丁目3-1-603号	(0836) 22-8164	(0836) 22-8164

## 2. 会員脱会状況

支部	地区	氏名	脱会年月日	備考
徳山	徳山	内 富 旭	12.9.17	退去
岩国	岩国	宮本克巳	12.10.17	退去
岩国	柳井	藤山正雄	12.10.19	廃業
徳山	徳山	富水輝雄	12.10.25	廃業
岩国	岩国	新本清人	12.11.19	退去

## 3. 事務所住所変更

支部	氏名	変更年月日	変更事項	変更内容	TEL	FAX
岩国	大森正秀	H12.6.17	事務所	〒742-0002 柳井市山根10番14号(住居表示)		
下関	宮崎幸三	H12.8.1	事務所	〒751-0828 下関市幡生町二丁目3番25号	(0832) 51-6972	(0832) 51-6973
岩国	林山正人	H12.7.25	事務所	〒740-0012 岩国市元町三丁目6番20号		
防府	松田光則	H12.10.10	事務所	〒747-0801 防府市駅南町14番26号	(0835) 27-0950	(0835) 25-3262
防府	石田 豊	H12.11.1	事務所	〒747-0809 防府市寿町1番8号		
防府	石田浩三	H12.10.14	住所	〒747-0821 防府市豊岡町二丁目8番6号		
		H12.11.1	事務所	〒747-0809 防府市寿町1番8号		

## 4. TEL・FAX変更

支 部	氏 名	変更事項	変更前	変更後
岩 国	沖 廣 智 裕	F A X	(0827) 22-7724	(0827) 23-5172
森	熊 野 美 智 江	F A X	新 設	(0837) 43-0686
森	岡 村 一 郎	F A X	(0837) 26-4361	(0837) 26-4363
宇 部	豊 野 佳 秀	F A X	新 設	(0836) 73-2110

## 訃 報



徳山支部 内 富 旭 会員  
 明治37年10月17日生（享年86才）  
 昭和27年9月9日入会  
 平成32年9月17日逝去



岩国支部 宮 本 克 巳 会員  
 昭和7年3月23日生（享年88才）  
 昭和38年5月2日入会  
 平成32年10月17日逝去



岩国支部 新 本 清 人 会員  
 大正11年10月4日生（享年94才）  
 昭和28年12月30日入会  
 平成32年11月19日逝去

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。



# 会 務 報 告

開催日	会 務	場 所
12. 6月23日(金)	日調連 制度制定50周年記念式典・祝賀会	東 京 都
24日(土)	日調連 定時総会	
7月3日(日)	「伊能ウオーク」説明会	朝 日 新 聞 山 口 支 局
3日(日)	会報編集会議	調 査 士 会 館
4日(火)	50周年記念誌編集会議	調 査 士 会 館
7日(金)	土業ネットワーク定期大会・懇親会	ば る る プ ラ ザ 山 口 館
17日(月)	会員指導協議会	調 査 士 会 館
18日(火)	総務・財務部会	調 査 士 会 館
22日(土)	研究会会議	調 査 士 会 館
26日(水)	業務部会、理事会	調 査 士 会 館
28日(金)		
29日(土)	中国ブロック会長会議・監査会	岡 山 市
8月8日(火)	50周年記念式典部会	調 査 士 会 館
10日(木)	法・可・調三者協議会	調 査 士 会 館
18日(金)	公職協会 定時総会	小 郡 市 会 館
22日(火)	役員推薦委員会	調 査 士 会 館
22日(火)	50周年事業協力圏・登記情報提供システムの運用開始についての問い合わせ	山 口 地 方 法 務 局
25日(金)	山口県資産評価共同組合設立記念祝賀会	下 関 市 館
27日(日)	司調共催開基大会	司 法 書 士 会 館
30日(水)	50周年記念事業各部会	調 査 士 会 館
30日(水)	土業ネットワーク理事会	司 法 書 士 会 館
31日(木)	公職協会との協議会	調 査 士 会 館
31日(木)	会員指導協議会	調 査 士 会 館
9月1日(金)	支部企画委員と本部業務部との合同会議	調 査 士 会 館
1日(金)	「秋の日」登記無料相談	県 下 各 会 館
8日(木)	広報部と支部長との会議（「伊能ウオーク」最終調整会議（復路））	調 査 士 会 館
13日(水)		
14日(木)	中国ブロック 定時総会	岡 山 市
22日(金)	不動産表示登記事務取扱要領説明会 打合せ	調 査 士 会 館
26日(火)	50周年記念式典 打合	調 査 士 会 館
27日(水)	会員指導・50周年事業協力圏	山 口 地 方 法 務 局
29日(金)	中公連総会	山 口 市 館
10月3日(火)	50周年記念誌編集会議	調 査 士 会 館
6日(金)	鳥根県土地家屋調査士会 50周年記念式典	山 口 地 方 法 務 局
6日(金)	50周年記念式典 打合	北 九 州 市 一 下 関 市
8日(日)	山口県入り引継式	下 関 市 一 豊 浦 町
9日(月)		豊 浦 町 一 豊 田 町
10日(火)		豊 田 町 一 美 祿 市 一 秋 芳 町
11日(水)		秋 芳 町 一 美 東 町
12日(木)		美 東 町 一 山 口 市
13日(金)		
14日(土)	伊能ウオーク	
15日(日)	ウォーク休養日	山 口 市 一 萩 市
15日(日)	山口県大会、伊能国展（山口市）	萩 市 一 阿 武 町
16日(月)	伊能国展（萩市）	阿 武 町 一 須 佐 町
17日(火)		須 佐 町 一 益 田 市
18日(水)		調 査 士 会 館
19日(木)	鳥根県入り引継式	
11日(木)	役員推薦委員会	

開催日	会 務	場 所
10月12日(木)	不動産表示登記事務取扱要領説明会打合	調査士会館
12日(木)	G P S基準点設置	調査士会館
12日(木)	会員指導協議会	調査士会館
17日(水)	50周年記念式典 打合	調査士会館
20日(金)	50周年記念式典	ばるるプラザ山口館
27日(金)	綱紀委員会	調査士会館
31日(火)	業務部会、正副会長会	調査士会館
11月7日(火)	綱紀委員会	調査士会館
7日(火)	不動産表示登記事務取扱要領説明研修会	ばるるプラザ山口
10日(金)	┆ 地産国際シンポジウム	東 京 都
11日(土)	法律関連士業ネットワークー査相談会	調査士会館
11日(土)	全国会長会議	東 京 都
15日(水)	非土地家屋調査士排除等調査 (12/8まで)	山口地方法務局管内
16日(木)	小澤克己新ビル竣工祝賀会	ばるるプラザ山口
18日(土)	研究室会議	調査士会館
21日(火)	広報部会 (編集会議)	調査士会館
24日(金)	山口地方法務局徳山支庁庁舎落成式	徳 山 市
25日(土)	岡山県土地家屋調査士会 50周年記念式典	岡 山 市
12月1日(金)	┆ 西日本会長会議	香 川 県
2日(土)	中間監査	調査士会館
6日(水)	役員推薦委員会	調査士会館
6日(水)	広報部会 (編集会議)	調査士会館
8日(金)	┆ 日調連 境界鑑定講座	東 京 都
10日(日)	┆ 日調連 境界鑑定講座	東 京 都
11日(月)	┆ 日調連 境界鑑定講座	東 京 都
12日(火)	法・司・調三者協議会	山口地方法務局

## 調査士試験合格者名

### 平成12年度土地家屋調査士試験合格者

氏 名	生年月日	住 所
若 月 慎一郎	昭和45年1月29日	吉敷郡秋穂町東6798-36
久 保 真珠美	昭和35年11月1日	宇部市亀浦1丁目6-2-502
竹 田 雅 一	昭和51年8月13日	豊浦郡豊浦町大字小串8-303
吉 武 正 敬	昭和43年3月9日	山口市大字陶4421
森 本 康 博	昭和35年10月27日	防府市大字富海2917-4
村 上 賢 二	昭和42年12月3日	島根県益田市隣村町325

合格 おめでとうございます。

# 広報部からのお願い



**皆様の投稿を  
お待ちしております!!**

愉快的な話題、難しい話、  
なんでもOK。  
私達の編集室で、  
楽しい会報に致します。

**ウオーク去り  
原稿乏しくなりにけり**

発行 山口県土地家屋調査士会  
山口市惣太夫町2番2号 〒753-0042  
電話 (083) 922-5975  
FAX (083) 925-8552  
振替 01590-5-11085

発行者 山口県土地家屋調査士会  
会 長 乗川 良介  
広報担当副会長 三好 一敏  
広報部長 打越 充浩  
副部長 坂本 敬子  
理 事 柴田 敏明  
◇ 三刀屋康之

印刷所 (株) マ ル ニ



# 伊能ウオーク **ネガ** レポート

岩国スタート

ゴール  
(島根)

